

芦田耕一名誉教授寄贈・近世後期和歌関係資料目録稿

田 中 則 雄
(島根大学法文学部)

摘 要

本稿は、芦田耕一名誉教授より山陰研究センターが寄贈を受けた近世後期和歌関係資料の目録である。

キーワード・和歌 近世和歌 類題和歌集

芦田耕一・法文学部名誉教授は、近世の出雲歌壇を中心に島根の和歌研究に関する重要な業績を残されている。この度研究の中でも用いられた近世後期和歌関係資料を山陰研究センターへ寄贈いただいた。その目録を示し、末尾に参考として芦田名誉教授による近世出雲歌壇研究論著一覧を掲げる。

各見出しの書名は内題に拠ることを原則としたが、作品の認定などの便を考え外題等をあえて採用した場合もある。

一、紅塵集類題

(外) 紅塵和歌集類題 (内) 紅塵集類題
刊本。二卷二冊。一八・二一・二二・一纏。

蓮阿編。自跋(年時なし)。

(刊記) 文化九年。大坂・鳥飼市右衛門、同・松邨九兵衛、同・田中
太右衛門、同・洪川清右衛門、同・小林六兵衛、同・前川嘉七、同・
柳原喜兵衛、同・多田勘兵衛、同・葛城長兵衛。

〈凡例〉

外題・内題／刊写の別／巻冊／寸法(縦×横)／編著者等名、序・跋
等／刊記／見返し等／備考(※)の順に掲げた。なお該当のない項目
は適宜省略した。

外題・内題等の割書は「」で括って示した。(例)「再／撰」

二、類題草野集

（外）類題草野集（内）草野集

刊本。一二卷二冊。二二・八×一五・七糎。

木村定良編。文政元年一〇月清水浜臣序。文政二年二月巨勢利まさ

（利和）序。凡例の末に「文政五年九月木村定良識」。

（刊記）第六冊末、第二二冊末に同一の刊記あり。京都・出雲寺文次郎、同・勝村治右衛門、大坂・河内屋喜兵衛、同・秋田屋太右衛門、江戸・須原屋茂兵衛、同・出雲寺万次郎、同・岡田屋嘉七。

三、類題柞舎集

（外・内）類題柞舎集

刊本。一冊。一八・三×二二・二糎。

千家尊朝詠。

（刊記）天保一三年。江戸・須原屋茂兵衛、大坂・河内屋儀祐、同・柏原屋清右衛門、和歌山・阪本屋喜一郎、名古屋・永楽屋東四郎、松江・尼崎屋喜惣右衛門、大社・和泉屋助右衛門、京都・近江屋佐太郎。見返し「柞舎集／此集八天日隅宮御杖代兼国造尊孫乃三郎千家薫丸尊朝歌集也」。

首に「尊朝宿禰伝」（「天保十二年三月／櫛乃舎主人しるす」）を付す。末尾に「鶴山社中蔵板書目」を付す。

四、類題八雲集

（外・内）類題八雲集

刊本。一冊。一七・九×一一・九糎。

鶴山社中編。天保一三年五月有功序。

（刊記）天保一三年。江戸・須原屋茂兵衛、大坂・河内屋儀祐、同・柏原屋清右衛門、和歌山・阪本屋喜一郎、名古屋・永楽屋東四郎、松江・尼崎屋喜惣右衛門、大社・和泉屋助右衛門、京都・近江屋佐太郎。見返し「類題八雲集／出雲国杵築／鶴山社中蔵板」。

末尾に「鶴山社中蔵板書目」を付す。

五、近世名家集類題

（外）近世名家歌集（内）近世名家集類題

刊本。七冊。一七・九×二二・〇糎。

鈴木重胤編。天保一四年二月樞屋社中序。

（刊記）第四冊末に刊記あり。「淡州 樞廼舎蔵板」。天保一四年。「三都書肆」として、江戸・和泉屋吉兵衛、同・須原屋伊八、大坂・藤屋善七、同・河内屋儀助、京都・田中屋仙助、同・大文字屋仙蔵、同・近江屋佐太郎。「売弘書肆」として、江戸・和泉屋吉兵衛、同・岡田屋嘉七、大坂・河内屋喜兵衛、同・河内屋茂兵衛、同・河内屋和助、京都・出雲寺文次郎、同・大文字屋与惣兵衛、同・近江屋佐太郎。なお第七冊（最終冊）末には、売弘書肆の記（第四冊のものと同じ）のみあり。

第一・五冊見返し「鈴木重胤大人選／「近／世」名家歌集類題／書肆二書楼蔵梓」。

尾題は「類題今歌集」「近世名家集」「近世名家集」「近世名家集類題」と不統一。

六、鶯蛙集

（外）打聴鶯蛙集（内）鶯蛙集

刊本。初編。二卷二冊。一八・六×一二・二糎。

本居豊類編。嘉永五年正月紀尚長序。本居内遠跋(年時なし)。

(刊記)嘉永五年。和歌山・阪本屋喜一郎、同・阪本屋大二郎。

末尾に「鶯蛙集作者姓名」を付す。

二編の広告あり。

七、鶯蛙集

(外)打聴鶯蛙集(内)鶯蛙集

刊本。下巻のみ存。一冊。一七・六×一二・二糎。

本居豊類編。内遠跋(年時なし)。

(刊記)明治二四年再版。編輯者東京・本居豊類／発行者大阪・横山

泰治郎／発売所大阪・兔屋書店。

末尾に「鶯蛙集作者姓名」を付す。

八、武蔵野集

(外)むさしの集(後補墨書き)(内)武蔵野集

刊本。初編。二卷二冊。一八・二×一一・七糎。

仲田顕忠編。嘉永五年三月自序。自跋(年時なし)。

(刊記)嘉永五年。京都・勝村治右衛門、大坂・河内屋喜兵衛、江戸・

山城屋佐兵衛。

見返し「蓬園仲田顕忠大人輯／類題武蔵野集／江戸書林 玉山堂蔵梓」。

末尾に「武蔵野集作者姓名録」を付す。

※初編・二編あるうち、初編存。

九、青藍集

(外)欠(内)青藍集

刊本。上冊のみ存。一冊。一八・四×一一・八糎。

秋元安民編。嘉永六年三月千家尊孫序。

最終冊を欠き、刊記等の如何不明。

見返し「秋元安民先生選／類題青藍集／無戸室蔵板」。

一〇、類題真璞集

(外)類題真璞集(内)真璞集類題

刊本。三冊。一七・九×一二・五糎。

千家尊孫詠。嘉永六年五月千家尊澄跋。

(刊記)安政二年。和歌山・帯屋伊兵衛、同・阪本屋大二郎、姫路・

灰屋輔二、名古屋・永楽屋東四郎、出雲大社・和泉屋助右衛門、江

戸・須原屋茂兵衛、同・岡田屋嘉七、京都・近江屋佐太郎、同・恵比

須屋市右衛門、大坂・柏原屋与左右衛門、同・柏原屋清右衛門。

見返し「天日隅宮御杖代尊孫詠／類題真璞集 全三冊／出雲国杵築

鶴山文庫」。

末尾に「鶴山社中蔵板書目」を付す。

一一、自点真璞集

(外)自点真璞集(内)自点真璞集類題

刊本。四冊。二六・〇×一八・四糎。

千家尊孫詠。慶応元年九月自序。自跋(年時なし)。

(刊記)江戸・須原屋茂兵衛、同・岡田屋嘉七、大坂・河内屋茂兵衛、

同・河内屋喜兵衛、名古屋・永楽屋東四郎、和歌山・帯屋伊兵衛、京

都・林芳兵衛、同・越後屋治兵衛。

見返し「自点真璞集／出雲国杵築／鶴山中蔵」。

末尾に「鶴山中蔵板書目」を付す。

※「日本古典籍総合目録データベース」では、天保一二年成、慶応元年刊とする。

一二、類題稻葉集

（外）類題稻葉集（内）稻葉和歌集

刊本。二卷二冊。一九・四×二二・八糎。

中島宜門編。安政三年春自序。白井治堅序（年時なし）。嘉永五年一二月自跋。

（刊記）「回水園蔵板」。「因幡鳥取彫工若桜屋利三郎 弘所書林油屋仲蔵」。刊年不明。

見返し「中島宜門大人編輯／類題和歌稻葉集／回水園蔵板」。

一三、類題春草集二編

（外・内）類題春草集二編

刊本。上冊のみ存、一冊。一七・七×二一・八糎。

物集高世編、西田惟恒校。万延元年七月中島田翁序。

見返し「物集高世大人選 西田惟恒大人校／類題春草集二編／豊後杵築葎之屋社中蔵」。

最終冊存せず、刊記等の如何不明。

一四、「再／撰」類題秋草集初編

（外）類題秋草集初編（内）「再／撰」類題秋草集初編

刊本。初編上・下巻。一冊。一八・〇×二二・三糎。活字。

中村良顕校閲、彈舜平撰輯・出版。春夫序（年時なし）。

（刊記）明治二〇年。発売所 大坂・桐園出版掛／売弘所 大坂・柳原喜兵衛、東京・金花堂、京都・山本彦兵衛。

見返し「中村良顕大人校閲 彈舜平琴緒編輯／類題秋草集初編／桐園蔵梓」。

末尾に「「再／撰」類題秋草集作者氏名録」を付す。

刊記の前に「桐園出版発売書目」を付す。

※一五とは別本。

一五、「再／撰」類題秋草集初編

（外）欠（内）「再／撰」類題秋草集初編

刊本。初編上・下巻。一冊。一七・九×二二・二糎。活字。

中村良顕校閲、彈舜平撰輯・出版。春夫序（年時なし）。

（刊記）明治二〇年。発売所 大坂・桐園出版掛／売弘所 大坂・柳原喜兵衛、東京・金花堂、京都・山本彦兵衛。

見返し「中村良顕大人校閲 彈舜平琴緒編輯／類題秋草集初編／桐園蔵梓」。

末尾に「「再／撰」類題秋草集作者氏名録」を付す。

刊記の前に「桐園出版発売書目」を付す。

※袋あり。「中村良顕大人校閲 彈舜平琴緒編輯／類題秋草集初編／桐園蔵梓」（見返しと同一の板木を用いた刷り）。「明治四二年十月日新本」。

※一四とは別本。

一六、和歌鴨川集

(外・内) 和歌鴨川集

刊本。三卷三冊。一六・三×一〇・九糶。活字。

長澤伴雄編。「上巻」嘉永元年四月修理大夫雅泰序。「中巻」嘉永四年八月大橋長廣序。「下巻」嘉永七年正月桂有彰序。佐保民雄跋(年時なし)。

(刊記) 大正二年。発売所 大坂・武田交盛館、東京・富田文陽堂。

扉に「長澤伴雄大人原撰／和歌鴨川集 春夏の巻／東京 文陽堂 大坂 交盛堂 発売」。

一七、稲葉集題詠

(外) 稲葉集(内) 稲葉集題詠

刊本。二卷二冊。二五・七×一七・九糶。

本居大平詠。文政七年正月三井高匡序。

(刊記) 江戸・須原茂兵衛、大坂・柏原清右衛門、京都・錢屋利兵衛、同・勝村次右衛門、松阪・柏屋兵助。

一八、八十浦之玉 中巻

(外・内) 八十浦之玉

刊本。二冊。二六・八×一八・六糶。

本居大平編。文政一二年九月加納諸平跋。

(刊記) 「櫛廼舎藏版」。文政一二年。京都・恵比須屋市右衛門、大坂・秋田屋太右衛門、伊勢・柏屋兵助、紀州・総田屋平右衛門。

「八十浦の玉上巻」「同下巻」の広告あり。

末尾(刊記部分の上)に貼り紙による広告(「類題和歌鮫玉集」「古言

本音考」「鉗狂人)あり。

一九、瓊浦集

(外・内) 瓊浦集

刊本。二冊。二五・二×一七・八糶。

中島広足編。藤原永章序(年時なし)。凡例の末に「天保十一年三月中島広足しるす」。

(刊記) 江戸・英大助、大坂・秋田屋太右衛門。

見返し「中島広足著／瓊浦集 初編二冊／社中蔵」。

※『日本古典文学大辞典』では、天保一二年刊とする。

二〇、柿園詠草

(外・内) 柿園詠草

刊本。二冊。二六・〇×一八・二糶。

加納諸平詠。嘉永六年一月自跋。

冊末に「柿園社中蔵板」。同じく冊末に朱印「製本所／紀州若山／新通三丁目／総田屋平右衛門」。

※『日本古典文学大辞典』では、嘉永七年刊とする。

二一、柿園詠草拾遺

(外・内) 柿園詠草拾遺

刊本。一冊。二六・六×一八・七糶。

加納諸平詠。飯田年平編。

(刊記) 明治一八年。出版人 東京・飯田年平、同・足立正声／製本並

発売人 吉川半七。

見返し「加納諸平著／柿園詠草拾遺完／石園藏版」。

冊首に、明治一二年九月、飯田年平・瀨見善水による題言あり。

二二、浦のしほ貝

（外・内）浦のしほ貝

刊本。三冊。二五・八×一八・三糎。

熊谷直好詠。三井宗之編。弘化二年九月三井宗之跋。

（刊記）安政三年。江戸・須原屋茂兵衛、同・山城屋佐兵衛、名古屋・

永楽屋東四郎、京都・田中屋治助、大坂・河内屋和助。

見返し「直好先生歌集／浦のしほ貝／長春亭藏」。

二三、浦の塩貝拾遺

（外）浦塩貝拾遺（内）浦の塩貝拾遺

刊本。四冊。二五・九×一八・二糎。

熊谷直好詠。安政三年八月陸奥介景恒序。尾張国つしまの里人茂之跋

（年時なし）。

刊記なし。

見返し「直好先生詞集／浦塩貝拾遺／長春亭藏」。

二四、浦の塩貝拾遺

（外）浦のしほ貝拾遺（内）浦の塩貝拾遺

刊本。一冊。八・六×一八・八糎。

熊谷直好詠。安政三年八月陸奥介景恒序。尾張国つしまの里人茂之跋

（年時なし）。

（刊記）明治一三年。翻刻人愛知県・濱田久八郎、同・細川小八郎。

見返し「熊谷直好大人歌集／浦のしほ貝拾遺／万卷堂 九星閣」。

二五、樟齋集

（外・内）樟齋集

刊本。一冊。二六・六×一八・三糎。

飯田秀雄詠。飯田年平編。文久元年一月小林大之序。安政六年二月

飯田年平跋。

（刊記）明治九年。東京・飯田年平。「因幡飯田秀雄遺稿」。

見返し「飯田秀雄大人著／樟齋集／石園藏版」。

二六、名所今歌集

（外・内）名所今歌集

刊本。六冊のみ存。二七・〇×一八・九糎。

中尾義稻編。

（刊記）文化一四年。名古屋・菱屋金兵衛、同・美濃屋伊六、同・美

濃屋市兵衛。

末尾に「鈴屋門人尾張社中著述書目」を付す。

元来全三卷七冊のところ、卷上ノ下・中ノ上・中ノ下・下ノ上・下ノ

中・下ノ下の六冊のみ存（卷上ノ上欠）。

二七、近世名所歌集初編

（外・内）近世名所歌集

刊本。三卷三冊。一八・三×一一・二糎。

堀尾光久編。嘉永三年六月音博士源朝臣松苗序。嘉永三年一月本居

内遠序。加納諸平序（年時なし）。嘉永三年六月自跋。

〔刊記〕嘉永四年。京都・丸屋善兵衛、江戸・須原屋茂兵衛、同・須原屋伊八、大坂・秋田屋太右衛門、同・敦賀屋彦七、名古屋・永楽屋東四郎、徳島・天満屋武兵衛、岡山・片上孫兵衛、広島・井筒屋忠八郎、松江・尼崎屋喜惣右衛門、杵築・和泉屋助右衛門、長崎・辰巳屋万兵衛、和歌山・阪本屋喜一郎、同・阪本屋大二郎。

見返し「堀尾光久大人輯／近世名所歌集 初編三冊／発行書林 野田眉寿堂」。

末尾に「廣告〔菱能舎藏板／近世名所歌集 二編三冊 近刻／書林 紀州若山湊昌平河岸 阪本屋大二郎〕あり」。

末尾に「近世名所歌集作者姓名録 初編」を付す。

二八、近世名所歌集 二編
〔外・内〕名所歌集

刊本。三卷三冊。一八・三×二二・二種。

堀尾光久編、西田惟恒校。序（年時・序者名なし）。嘉永四年三月松平忠昌序。嘉永四年春富永芳久跋（年時なし）。

〔刊記〕嘉永七年。京都・恵美須屋市右衛門、江戸・須原屋茂兵衛、大坂・秋田屋太右衛門、和歌山・帯屋伊兵衛、同・総田屋平右衛門、同・阪本屋喜一郎、同・阪本屋大二郎。

見返し「堀尾光久大人編輯 西田惟恒大人校正／名所歌集 二編三冊／木国府下 四書房」。

末尾に「名所歌集二編作者姓名録」を付す。

二九、安政年々歌集

〔外〕安政年々歌集（内）安政二年百首／安政三年二百首／安政四年

芦田耕一名譽教授寄贈・近世後期和歌関係資料目録稿（田中則雄）

三百首／安政五年四百首／安政六年五百首
刊本。二冊。一七・八×一一・七種。

西田惟恒編、五十君夷守校。「安政二年百首」安政二年一二月諸平序。安政二年一二月高階惟恒跋。「安政三年二百首」橘尚忠序（年時なし）。

〔安政四年三百首〕安政四年閏五月鈴木高頼序。「安政五年四百首」安政五年九月小山川蔭序。「安政六年五百首」安政六年四月藤原顕忠序。

〔刊記〕京都・恵比須屋市右衛門、大坂・秋田屋太右衛門、和歌山・阪本屋喜一郎、同・阪本屋大二郎。

見返し「西田惟恒大人輯 五十君夷守大人校／安政年々歌集 二冊／紀伊若山世寿堂 眉寿堂 合梓」。

末尾に「類題和歌玉藻集」の広告あり。

「御詠艸取次所」として、京都・城戸市右衛門、名古屋・永楽屋東四郎、和歌山・阪本屋喜一郎、同・阪本屋大二郎、同・阪本屋源兵衛を列記。

それぞれの集に「作者姓名録」を付す。

三〇、文久元年七百首

〔外・内〕文久元年七百首

刊本。一冊。一七・九×一一・九種。

西田惟恒編、五十君夷守校。文久元年夏尾古重伴序。

〔刊記〕和歌山・阪本屋喜一郎、同・阪本屋大二郎、同・阪本屋源兵衛。見返し「西田惟恒大人輯 五十君夷守大人校／文久元年七百首／紀伊若山世寿堂 眉寿堂 合梓」。

末尾に「文久元年七百首作者姓名録」を付す。

三一、文久二年八百首

(外) 文久二年八百首(後補墨書き) (内) 文久二年八百首
刊本。一冊。一七・九×一・七糎。

西田惟恒編、五十君夷守校。文久二年三月水原宗之序。文久二年五月
渡辺常品序。

刊記なし。

見返し「西田惟恒大人輯 五十君夷守大人校／文久二年八百首／紀伊
若山眉寿堂 世寿堂 合梓」。

末尾に「文久二年八百首作者姓名録」を付す。

三二、月詣和歌集／諸大家歌集同随筆／雲陽杵築大社三十一人奉納歌
／東福門院御屏風風色紙歌

(外) 月詣和歌集／諸大家歌集同随筆／雲陽杵築大社三十一人奉納歌
／東福門院御屏風風色紙歌

写本。一冊。二七・二×一八・五糎。

奥書等なし。書写年時不明。

※抄出を集める。書名は、外題に拠る。

三三、和歌八重垣

(外・内) 和歌八重垣

刊本。七卷七冊。一五・八×一〇・九糎。

有賀長伯著。元禄一三年季陽自序。

(刊記) 元禄一三年。京都・山岡四郎兵衛、江戸・(ヤブレ。「同」と
あるべきところ) 甚四郎

三四、名所小鏡

(外) 欠(内) 名所小鏡
刊本。一冊。一三・〇×一〇・七糎。

(刊記) 貞享二年。京都・永田長兵衛。

三五、八雲琴譜

(外) 八雲琴譜

刊本。一冊。二五・九×一八・四糎。

中山琴主著。安政五年五月千家尊澄序。嘉永四年五月豊あし廼舎の主
人序。安政五年秋佐草文清序。穂積重胤序(年時なし)。自序(年時な
し)。大岸元琴正常跋(年時なし)。是枝生胤跋(年時なし)。中嶋檢校
跋(年時なし)。安政五年七月中臣正蔭跋。寿の舎琴臣跋(年時なし)。

(刊記) 東京・北畠茂兵衛、大阪・岡田茂兵衛、京都・井上治兵衛。
明治後印。

見返し「神宝六律五十音婦女子教道／神伝八雲琴譜／従三位藤原信礼
／中山蔵」。

【洋装本】

三六、村上忠順集

(背) 村上忠順集(扉) 村上忠順集 村上家蔵

一冊。一九六九年。村上正雄発行。

三七、村上忠順集 紀行篇

(外) 村上忠順集 紀行篇(扉) 村上家蔵／村上忠順集第二／紀行篇

一冊。一九七四年。村上正雄発行。

三八、村上忠順論攷

(外・扉)村上忠順論攷

一冊。中澤伸弘著。二〇一四年。私家版。

三九、類題玉石集

(外・内)類題玉石集

上・下二冊。上、一九七二年。下、一九七三年。防府市教育委員会発行。

《参考》 芦田耕一名誉教授・近世出雲歌壇研究論著

芦田耕一『出雲国の四歌集』(私家版、二〇〇七年)

芦田耕一『出雲歌壇』(私家版、二〇一一年)

芦田耕一『江戸時代の出雲歌壇』(今井出版、二〇一二年)

芦田耕一・蒲生倫子『出雲国名所歌集』(ワンライン、二〇〇六年)

芦田耕一・原豊二・山崎真克『類題八雲集』(翻刻・解説と作者索引)(私家版、二〇〇九年)

芦田耕一「江戸時代末期の大社歌壇」(『手銭家資料を活用した江戸時代の出雲文化の発掘と再生事業・実施報告書』(出雲文化活用プロジェクト実行委員会、二〇一五年)所収)

芦田耕一「大社地方における文芸環境―「まとみ」を中心にして―」(『鳥大國文』三四、二〇一四年一月)

芦田耕一「出雲大社奉納和歌と出雲歌壇」(『出雲地域の学問・文芸の興隆

芦田耕一名誉教授寄贈・近世後期和歌関係資料目録稿(田中則雄)

と文化活動」(公益財団法人いづも財団・出雲大社御遷宮奉賛会編、今井出版、二〇一八年)所収)

芦田耕一「歌風の刷新と出雲歌壇」(『同』所収)

付記

本稿は、山陰研究プロジェクト「山陰地域文学関係資料の研究」(二〇一六―一八年度、代表・野本瑠美)の研究成果の一部である。

The List of the documents about Waka in the Edo era, contributed by professor emeritus Ashida Koichi

TANAKA Norio
(Faculty of Law and Literature)

[Abstract]

This writing is the List of the documents about Waka in the Edo era, contributed by professor emeritus Ashida Koichi.

Keywords : Waka, Waka in the Edo era, Ruidai-Waka